

第3学年社会科学学習指導案

1 単元名 火事からまちを守る人々

2 単元の目標

- 消防署の施設や設備, 119番のしくみ, 学校や地域の消防設備について知り, そこで働く人々は地域の安全を守るために様々な訓練や活動を行い火事からまちを守るはたらきをしていることを理解する。
- グループで相談し, 自分が考えたプログラムを, より良いルートにするために話し合うことができる。
- 自分たちが調べたことや聞いてきたことを2年生に紹介する活動を通して, 自分たちの安全を守るためにできる行動や, 心がけるべきことを考え表現する。

3 本時の学習

(1) 目標

- グループで相談し, 自分が考えたプログラムを, より良いルートにするために話し合うことができる。
- 消防士さんの思いや考えを理解し, それを実現するためのプログラムを考えることができる。

(2) プログラミングを取り入れる効果

アリロ(知育ロボット)を使って, 火事の現場に行くルートをプログラミングする。この活動を通して

- ① 主体的・対話的で深い学びになる。
- ② 消防士さんの思いや考えに触れることで, 消防士さんがどんなことを大切にして火事の現場に向かっているかをより深く考えることができ, プログラミング, 教科両方の目標に迫ることができる。と考える。

(3) 展開

	児童の思考と学習活動の流れ	教師の支援と評価	教材・教具
つかむ	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習活動について確認する。 ・消防士さんは、いち早く火事の現場に駆けつけないといけないね。	○消防士の方が児童に問いかけるビデオレターを準備し、児童が視聴することで本時の学習に意欲を持つことができるようにする。 ○本時までの学習を板書で振り返り、これまでの学習を想起でき	・電子黒板 ・プロジェクター
	火事の現場に行くためのルートをプログラミングしよう。		

考える	<p>2 火事の現場へ行くルートを考えてよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く火事の現場に行かないといけないね。 ・この道は通れないよ。どうすれば近道になるだろう。 ・安全で分かりやすいのはどの道かな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平面図を準備し、その中に通行止めの道を作るなど、条件を制限していくことで思考を深めることができるように工夫する。 ○川の近くや消火栓など、到着する場所を指定することで、児童の主体的な学びを促すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
話し合う	<p>3 考えたルートを、グループで紹介し合い、より良いルートをアリロを使って、プログラミングしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私とは違う道順だね。どちらが速くて安全だろう。 ・僕の選んだルートの方が速く到着できるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短冊を使ってプログラミングし、その順序でアリロに入力してプログラムが正しいのか確認する。 ○話し合った結果を全体で紹介することで、よりよいルートの意味づけを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット
まとめ	<p>4 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが話を聞いた消防士さんの、大変さや工夫が分かった気がするよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りの視点を示すことで、児童が観点を絞って振り返ることができるようにする。 	

(3) 評価

「十分満足できる」と判断される状況	<p>消防士さんの思いや考えを理解し、火事の現場に行くためのルートを主体的に考え、それをより良いものにするためにグループで話し合い、決定したルートのプログラムを考えている。</p>
「おおむね満足できる」状況を実現するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○消防士さんから火事の現場に行くときにどんなことに気をつけているのか、ビデオレターとして児童に見せることで消防士さんの思いや考えを理解できるようにする。 ○アリロを使ってプログラミングする前に、短冊を使ってプログラミングすることで、視覚的にプログラムの順序を確認できるようにする。